

ICTの活用を通して、考えを広げ深める児童の育成

－「整理・分析」の場面におけるICT思考ツールを活用した指導の工夫－

令和4年度 前橋特別研修研究員
前橋市立駒形小学校 木村 拓真

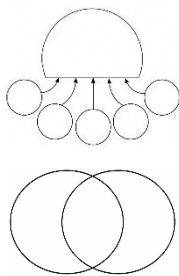
ICTの活用を通して、考えを広げ深める児童



手立て1

思考スキルの具体化と「ICT思考ツール」による協働での意見整理の場の設定
⇒Google Jamboardを使用

比較する	広げてみる
ベン図	イメージマップ
見通す	理由づける
フィッシュボーン	クラゲチャート
分類する	焦点化する
XYWチャート	ピラミッドチャート
順序立てる	関係、関連付ける
ステップチャート	コンセプトマップ



手立て2

考えをつなぐ教師の言葉がけと板書の工夫
⇒多様な考えの関連付け

合成する、選択する、強化する
補充する、視点・観点を増やす

⇒考えの統合と可視化

色・文字の大きさ・配置・記号（矢印など）

合成する	複数の考えを組み合わせ、新たな考えをもつ
選択する	複数の考えから、妥当と思われる考えを選ぶ
強化する	理由や根拠を加え、考えをより確かなものにする
補充する	考え方や理由などの不十分な面を補う
視点・観点を増やす	事物・事象を違う視点・観点で捉える

【児童の実態】

- グループ学習では、話し合いの方法や考え方が分からないため、意見を発表するだけで終わってしまい、話し合いが深まらない。
- 自他の考えを比較・検討し、関連付けながら自分の考えを再構築し、考えを深めるまでに至らない。

【指導上の課題】

- ICTを積極的に活用している職員は多いがICTの特性や強みを生かしきれず、ねらいに迫るための活用には課題がある。
- 児童の取り組み方への支援や考えを深めるための工夫が不十分である。

教科	単元（教材）名	学習内容	思考スキル	思考ツール（Jamboard）	図
国語	やまなし （資料）イーハトーヴの夢	五月と十二月の場面の特徴を比較しながら捉える【第6時】	比較する	ベン図	①
		作者が「やまなし」を題名にした理由を考える【第7時】	理由づける	クラゲチャート	②
社会	縄文の村から 古墳の国へ	縄文時代の様子を衣食住で分類し特徴を捉える【第2時】	分類する	Xチャート	/
		弥生時代の様子を衣食住で分類し特徴を捉える【第3時】	分類する	Xチャート	
		弥生時代に争いが増えた理由を考える【第4時】	理由づける	クラゲチャート	③
道徳	わたしのせいじゃない （公正、公平、社会主義）	いじめを止めるために必要な気持ちを考える	広げてみる	イメージマップ	④

整理 · 分析

個で思考

グループで
意見を交流し、考えを広げる

全体で
考えをつなぎ、深める

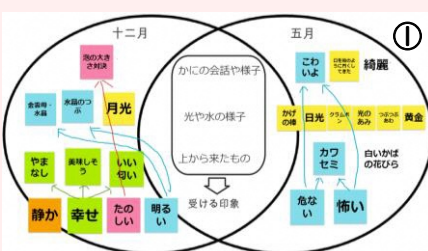
個で再構築

国語科の実践
【第6時】



自分の考えを
ICT思考ツールに入力

自分と友達の
考えの違いが
よくわかる！



A児:五月は上からかわせみが飛び込んできたよ。
B児:上からかわせみが来たから怖い印象を受けたよ。
A児:「かわせみ」と「こわい」の付箋を青色にしよう。
C児:十二月は上からやまなしが落ちてきたり、いい匂いがしたりしていたね。
D児:十二月から幸せな印象を受けた理由は、上から来たものがやまなしやいい匂いとかだったからだね。
A児:「やまなし」と「いい匂い」と「幸せ」の付箋は緑色にしよう。



教師：なぜ「幸せ」だと考えたのですか。『強化する』
 A児：いいにおいていっぱいになっている様子からです。
 【描写と受ける印象の付箋の色を揃える】
 教師：十二月の「安心安全」や「幸せ」の印象に対して、
 五月にはどんな印象がありますか。『選択する』
 B児：五月には、「危険」や「怖い」印象があります。
 【対比する付箋を丸で囲む】
 教師：五月と十二月の受ける印象はどんな関係になっ
 ていますか。『視点・観点を増やす』
 C児：反対（対比）の印象になっています。



このお友だちの日記が、あらましから
読んでみることにしよう。

クレーンでよめくついたら、**五月**梅は、
暗とちう印象な天にわって**十三日**
あやもてんふ。金果しなの印象
になてす。自分の方へ想ひこいすそつ
たを兄たのみ。

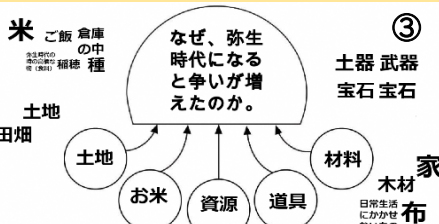
友人の考えを参考に
考え直すことが
できた！

社会科の実践 【第4時】

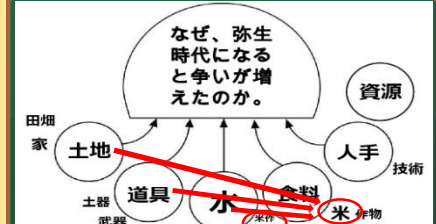


自分の考えを
ICT思考ツールに入力

話し合いながら
編集できるし
まとめやすい！



A児：土器が欲しかったんじゃないかな。
B児：武器も欲しかったと思うよ。
C児：土地や田畑も欲しかったと思うな。
A児：土器と武器は道具だから同じ場所にまとめよう。
C児：道具はまとめた葉だから丸の中に入れよう。
D児：ご飯は生きるために必要だと思う。
A児：私も、食料が欲しかったんじゃないかと思ったよ。
B児：米の付箋を大きくして強調するね。
C児：じゃあ、お米を丸の中に入れよう。



教師：食料、水、土地、道具の中で、弥生時代の人々が一番手に入れたものはどれかな。『選択する』

G児：土地です。米を作れるからです。【土地→米】

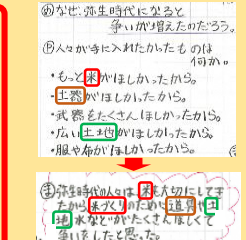
H児：道具です。狩りや食料が作れるからです。【道具→米】

I児：水です。米作りに水が必要だからです。【水→米】

J児：食料です。土地や水も必要だけどやっぱり米が必要だからです。【米を丸で囲む】

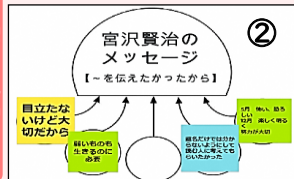
教師：繰り返して出てきた言葉って何かな？

児童：米。米作りです。【米を丸で囲む】



自分や自分の班には
なかった考えが分かる。
自分の中で新しい
考えが生まれる！

グループで意見を交流し、考えを広げる



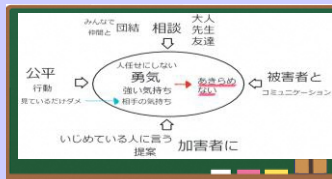
全体で考えをつなぎ、深める



グループで意見を交流し、考えを広げる



全体で考えをつなぎ、深める



成果と課題

- 児童の様々な考えを引き出すとともに、児童は拡散した思考を整理・分類しながら、新たに得た気づきを基に自分の考えを広げることができた。
- より多くの考えに触れることができ、自他の考えを比較・検討しながら、共通性や関連性を導き出し、自分の考えを再構築することができた。

- ◇全体で考えをつなぐ場において、児童の様々な考えを関連付けながら統合していくための発問や、児童の思考の流れの可視化に課題が残った。学級全体で学びを深めていくためには、教師のファシリテーターとしての役割について追及していく必要がある。